

科目名	特別支援教育理論			科目コード	5025
開講学科	教職課程	単位数	2	形態	講義
教員名	家門鉄治				
授業の目的及びテーマ					
特別支援が必要とはどういうことか、適切な支援をするために必要な理解とは何かなど、特別支援教育の基本について学び、具体的な事例を通してさまざまな支援についての理解を深め、実際の現場で役に立つ知識を身につけ、障害のある幼児、児童、生徒のみならず、それを必要とする者への適切な支援の方法について考えられるようになることをねらいとする。					
授業概要					
特別支援教育の特徴や、通常級で支援のニーズが高い発達障害の特性や、知的障害や身体障害の障害特性や支援方法、いじめ・不登校・貧困・育児放棄・日本語が話せない児童・生徒対応について事例を挙げながら説明する。それぞれの支援の基礎についても概説する。					
授業計画					
第 1 回：特別支援教育の理念。教員に求められる役割や技能について学ぶ。					
第 2 回：障害とは：「障害があるとはどういうことか」について、ケガや病気との違い、健常児の教育との相違点などを学習する。					
第 3 回：自閉症スペクトラム障害（ASD）・広汎性発達障害（PDD）・社会的コミュニケーション障害（SCD）などの基本的対応、インクルーシブ教育システムの構築、合理的配慮、基礎的環境調整について学ぶ。					
第 4 回：注意欠陥多動性障害（ADHD）の理解と指導・支援 ADHD の三つの特性に基づく行動特徴について理解し、注意・叱責を控えるなどの基本的な心構えを学ぶ。					
第 5 回：発達障害がある子どもに適切な支援教育を行うためには問題の背景を把握し、多面的な情報収集を行い、それらを総合して支援方針を決定する方法などを事例を通じて学ぶ。					
第 6 回：知的障害の理解と指導・支援：知的障害児の特性に加え、集団の中での適応の難しさや生活上の問題などをダウン症候群の事例を通じて学び、適切な学習環境調整、合理的配慮、教育方法について理解する。					
第 7 回：身体障害・視覚障害・聴覚障害の理解と指導・支援：教育現場で必要とされる知識である各障害の特性について理解し、どのような合理的配慮、基礎的環境調整、具体的対応があるかや支援の方法などについて学ぶ。					
第 8 回：中間総括：障害についての基本的知識、特別支援教育の制度や目標、障害の特性や対応について学んだことを整理し、課題に取り組む。					
第 9 回：(限定的) 学習障害の理解と指導・支援：SLD の定義に含まれる音声言語（聞く・話す）や書字言語（読む・書く）の問題を実例を通じて理解し、配慮にとどまらず子どもの何を伸ばすのか指導・支援法のポイントを学ぶ。					
第 10 回：いじめと不登校：いじめを受けている児童・生徒への適切な支援、不登校になっている児童・生徒への適切な学習環境の提供とは、対応方法、支援の方法について学ぶ。					
第 11 回：貧困・育児放棄家庭への支援 貧困による就学困難児童・生徒への支援方法や、育児放棄家庭における保護者への対応方法を考える。					
第 12 回：日本語が話せない児童・生徒への支援方法 さまざまな理由により日本語を話すことができない児童・生徒が学校に存在する。国際化社会の中で見落としてはならない問題について考える。					
第 13 回：「個別の指導計画」を作成する 自ら選択した支援の必要なケースを想定し、特別支援が必要な児童・生徒に合わせた指導計画を作成する。（通級による指導及び自立活動の教育課程上の位置づけと内容を含む）					
第 14 回：保護者、専門機関、地域との連携による支援：支援の効果は保護者との丁寧な情報交換、校内での協力体制の構築、専門家との連携などでさらにアップすること、特別支援教育コーディネータがそれらの中心的な役割を担うことなどを学ぶ。（通級による指導及び自立活動の教育課程上の位置づけと内容を含む）					
第 15 回：全体総括：特別支援教育の基本、支援が必要な子どものさまざまな特性についての基本的理解、アセスメントや適切な支援とは何かなど科目を通じて学んだ概念・情報を整理し、改めて理解して復習し、課題に取り組む。（通級による指導及び自立活動の教育課程上の位置づけと内容を含む）					
テキスト	「はじめての特別支援教育－教職を目指す大学生のために改訂版」 柘植 雅義、渡部 匡隆、二宮 信一、 納富 恵子編（有斐閣）			参考文献	
評価方法：					
課題提出（2課題）及び最終課題提出					